

編集後記

電波研究所では、昭和30年代から宇宙通信の研究を行っており、現在の国内衛星通信システムや衛星放送システムの実現に対して大きな推進力となったばかりではなく、国際的にも大きな寄与をしている。これに対して、移動体衛星通信の研究の開始は昭和51年ごろからであり、その歴史は比較的短い。しかし、宇宙通信であることには変わりはなく、今までに蓄積された経験は本プロジェクトに大きな力となっており、限られた予算の範囲であるにもかかわらず本稿に記載されているように数々の新しい技術が効果的に組み合わせられている。

研究プロジェクトはその本質的な目的は変わらないものも、このような長期にわたるものではその時代の変化に応じて修正が加えられることによりその意義が高められる。本プロジェクトもこのような観点から、プロジェクト開始当時の海事通信に航空機衛星通信が加えられ、更に陸上移動体通信が加えられることにより、総合的な移動体衛星通信に関する研究へと発展してきた。この研

小坂克彦（宇宙通信部 移動体通信研究室）

究は衛星の打ち上げ前から各方面の注目を集めており、いくつかの外国機関から共同実験の可能性を含めた打診がある。また、実験のため開発された航空機用アンテナがほぼそのままの設計で更にもう一基が製作され、インマルサットを使用した実験にも使用されることもその例であろう。

本特集号が発行されるころは、ETS-V が打ち上げられており、各種の実験が実施されているはずである。そしてそれらの実験の成果や開発された各種の装置に対する評価が、将来の移動体衛星通信システムの実現に大きく貢献することを望むものである。

電波研究所におけるこれまでの移動体衛星通信に関する研究に約10年の年月を要しており、そのためこのプロジェクトに関与した職員も多数にのぼっている。これら先輩諸氏を含む電波研究所の関係各位、郵政省、運輸省、宇宙開発事業団の関係者、そして実験に協力いただく北海道大学、日本航空そして共同研究として協力いただく関係会社の方々に深く感謝いたします。

